

Q1 財政計画とは何ですか

A 財政計画とは、市の収入（歳入）と支出（歳出）の見通しを中長期的にまとめたものです。人口動向や社会情勢、国の制度などを踏まえ、将来にわたり安定した行政サービスを提供するための財政運営の指針として作成しています。

Q2 なぜ財政計画を作るのですか

A 将来の収入と支出を見通すことで、財政の健全性を維持する、大きな事業の実施時期を調整する将来世代への負担を適切にするなど、計画的な財政運営を行うためです。

Q3 計画期間はどのくらいですか

A 本市の財政計画は、10年間の見通しを立て作成しているところですが、毎年の決算状況等を踏まえ、ローリング方式（毎年の見直し）により、シミュレーションを行っています。

Q4 財政計画は決定された予算ですか

A 財政計画は、将来の見通しを示したものであり、計画期間中の予算を決定づけるものではありません。

Q5 なぜ将来の収支が厳しくなる見込みなのですか

A 人口減少が続くと予想されるが、国の賃上げ等により、税収は微増を見込んでいます。一方で、高齢化社会に伴う扶助費（社会保障費）の増加、公共施設の老朽化対策に伴う大規模な施設改修等が予定されており、大きく基金（貯金）を取り崩す見込みです。

Q6 財政状況が厳しいと市民サービスは低下するのですか

A 歳入や基金（貯金）の減少により、自由に使えるお金が少なくなると、必要な市民サービスができなくなってしまいます。

そのため、国や県の補助金、市債を活用し、毎年の歳入水準に見合った歳出予算の編成、市民サービスの提供に努めているところです。

Q7 市の借金（市債）は増えるのですか

A 市債は、将来世代との負担の公平性を考慮し、公共施設整備など長期間利用する事業に活用します。ただし、将来の財政負担が過度にならないよう適切な水準で管理します。

財政計画において、大型の施設整備を予定している期間に一時的に市債が増えることとなりますが、計画最終年度における市債は減少する想定です。

Q8 財政調整基金（貯金）はどうなりますか

A 財政調整基金は、災害対応や急な財政需要に備えるための基金です。

財政計画では、必要な残高を確保しながら計画的に活用することとしています。

Q9 財政計画はどこで確認できますか

A 本Q&Aの上記に「奄美市第3次財政計画」を掲載しておりますので、ご確認ください。

Q10 公共施設の更新等は続けていけるのですか

A 公共施設の更新には多くの財源が必要となるため、長寿命化による維持管理、施設の統合・複合化・計画的な更新などを進め、将来の財政負担を抑えながら対応していきます。

Q11 基金（市の貯金）は今後どうなりますか

A 本市の実施計画（事業の想定計画）において記載されている全ての想定事業を実施する場合、財政計画最終年度には、基金残高が減少する見込みです

Q12 地方交付税はどのように見込んでいますか

A 地方交付税は、国の制度や地方財政計画などを踏まえて見込んでいます。ただし、国の制度改革や社会経済情勢によって変動する可能性があるため、財政計画では一定の前提条件を設定して試算しています。

Q13 物価高騰の影響は考慮されていますか

A 財政計画では、近年の物価動向を踏まえながら支出の増加を一定程度見込んでいます。今後の物価や社会情勢の変化に応じて、必要に応じて見直しを行います。

Q14 この財政計画はどのように活用されますか

A 財政計画は、毎年度の予算編成、大規模事業の実施時期の検討、中長期的な財政運営などの判断材料として活用します。